

論文審査の要旨

| | | | |
|---|----------------------------------|-----|-------|
| 報告番号 | 甲・㊦ 第 3076 号 | 氏 名 | 加藤 栄助 |
| 論文審査担当者 | 主査 相良 博典 副査 中村 清吾 副査 泉崎 雅彦 | | |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、肺癌発症において高リスクとされる特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis, IPF) 患者集団を観察し、肺癌の累積発症率と IPF 診断時の肺癌発症予測因子について検討した研究報告である。</p> <p>対象は、診断時に肺癌を発症していない IPF 患者 632 例で、経時的な肺癌累積発症率を算出し、また肺癌発症と年齢、性別、BMI、喫煙歴、肺気腫併発の有無、呼吸機能検査、血液検査との関連性を後方視的に比較検討した。</p> <p>その結果、観察期間中央値 3.8 年間で 70 人の患者が肺癌を発症し、肺癌発症頻度は 1000 人年あたり 25.2 人であった。最も多い組織型は扁平上皮癌であり、大部分は肺末梢で発生し、蜂巣肺と近接する傾向を有していた。また統計解析により、35pack-years 以上の喫煙歴と肺気腫併発が肺癌発症予測因子として確認された。肺癌発症後の予後は悪く、1 年全死亡率が 53.5%という結果であった。</p> <p>大規模な集団を観察した本研究で、肺癌発症率、肺癌発症予測因子、発生する肺癌の臨床的特徴、肺癌発症後の予後の悪さを示すことにより、肺癌の早期診断や治療マネジメントに直接影響する情報が得られた。</p> <p>以上より本論文は新しい知見を得ており、学術上価値があり学位授与に値すると判定した。</p> <p>論文題名 : Incidence and predictive factors of lung cancer in patients with idiopathic pulmonary fibrosis (特発性肺線維症患者における肺癌発症率と肺癌発症予測因子)</p> <p>掲載雑誌名 : European Respiratory Journal Open Research 2018; 4: 00111-2016</p> | | | |

(主査が記載、500 字以内)